

資質・能力の育成を目指した 授業づくりにむけて

徳島県小学校音楽教育研究会 研修会

令和7年6月4日

事前質問

- ① 学習指導案の様式・提案発表の原稿について
- ② 題材名について
- ③ ICTの活用について
 - 鑑賞領域における1人1台端末の活用方法
 - 提示としてのICT
 - 授業における端末の活用について
 - 効果的な端末の活用方法について

主要内容

資質・能力の育成の観点から

1. 題材構想の捉えについて

2. ICTの活用について

指導要領 p. 1 1 4

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。



(1)～(3)の実現により、この資質・能力が育成される

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。
(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領では、学年の目標及び内容を〔第1学年及び第2学年〕（低学年）、〔第3学年及び第4学年〕（中学年）、〔第5学年及び第6学年〕（高学年）のように2学年にまとめて示している。

これは、表現及び鑑賞の活動を繰り返しながら、継続的に学習を進めることにより、音楽科で育成を目指す資質・能力が徐々に身に付いていくという、音楽科の学習の特質を考慮したものである。さらに、児童や学校の実態等に応じた弾力的な指導を効果的に進めることができるようにしたものである。

第1学年及び第2学年 A表現 (1) 歌唱

- ア 歌唱表現について知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。
- イ 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。
- ウ 思いにあった表現をするために必要な次の（ア）から（ウ）までの技能を身に付けること。
 - （ア）範唱を聴いて歌ったり、階名で歌唱したり暗唱したりする技能
 - （イ）自分の歌声及び発声に気を付けて歌う技能
 - （ウ）互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能

第1学年及び第2学年 A表現 (1) 歌唱

- ア** 歌唱表現について知識や技能を得たり生かしたりしながら、思いを込めて表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。
- イ** 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や感情について気付くこと。
- ウ** 思いにあった表現をするために必要な次の（ア）から（ウ）までの技能を身に付けること。
- （ア） 範唱を聴いて歌ったり、階名で歌唱したり暗唱したりする技能
 - （イ） 自分の歌声及び発声に気を付けて歌う技能
 - （ウ） 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能

思考力、判断力、
表現力等

知識

技能

題材構想の考え方

1. 題材構想の捉えについて

資質・能力	知識及び技能		思考力、 判断力、 表現力等	学びに向かう力、 人間性等
	知識	技能		
教科の目標	(1)		(2)	(3)
学年の目標	(1)		(2)	(3)
表現	イ	ウ	ア	*
鑑賞	イ	ー	ア	
〔共通事項〕	イ	ー	ア	

題材構想の考え方

1. 題材構想の捉えについて

資質・能力	知識及び技能		思考力、 判断力、 表現力等	学びに向かう力、 人間性等
	知識	技能		
教科の目標	(1)		(2)	(3)
学年の目標	(1)		(2)	(3)
表現	イ	ウ	ア	*
鑑賞	イ	ー	ア	
〔共通事項〕	イ	ー	ア	

音楽づくりにおける資質・能力の関連付け

(ア)	ア 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。
	イ いろいろな音の響きやそれらの組合わせの特徴
	ウ 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能
(イ)	ア 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
	イ 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴
	ウ 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能

(ア) は、即興的に表現する活動

(イ) は、音を音楽へと構成する活動

指導事項を統一する

学習指導案について

1. 題材構想の捉えについて

音楽科学習指導案（例）

令和・年・月・日（・）第・校時
〇〇〇学校・年・組
指導員 〇〇 〇〇

1 題材名 〇〇〇〇〇〇〇〇

2 題材の目標 ※①次の内容で書く。

- (1) (知識及び技能)に関する内容
 - (2) (思考力、判断力、表現力等)に関する内容
 - (3) (学びに向かう力、人間性等)に関する内容
- ※②(学びに向かう力、人間性等)に関する内容の最後は、題材後の児童(生徒)の姿を設定する。

※③語尾は「～身に付ける。」「～する。」と書く。(～できるとしない。)

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参考にする。

3 教材

4 題材について

(1) 児童(生徒)の実態

(1)(2)(3)の項目ごとに分けずに、段落に分けて記述しても構わない。

(2) 教材について

(3) 指導に当たって

5 本題材で扱う学習指導要領の内容

1

※④学習指導要領の内容の部分を「一体的」に書く。

「一体的に」とは⇒ア(思考力・判断力・表現力等)、イ(知識)、ウ(技能)(鑑賞はア、イ)のそれぞれの指導事項(授業で扱うもの)を書く。単独では扱わない。
→題材の中では、共通事項に示す資質・能力と合わせて、必ずアイウの内容を関連させながら扱う。

1 題材名について

5 本題材で扱う学習指導要領の内容

※題材構想の要※

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 p.73

1. 題材構想の捉えについて

題材名 和音に合わせて旋律をつくろう
〔第5学年〕「A表現・音楽づくり」



2 指導事項との関連

A 表現 (3) 音楽づくり ア(イ), イ(イ), ウ(イ) [共通事項] (1) ア

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：
「音楽の縦と横との関係」)

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 p.73

1. 題材構想の捉えについて

題材名 和音に合わせて旋律をつくろう
〔第5学年〕「A表現・音楽づくり」



2 指導事項との関連

A 表現 (3)音楽づくり ア(イ), イ(イ), ウ(イ) [共通事項] (1) ア

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：

「音楽の縦と横との関係」)

「音楽的な見方・考え方」を働かせる授業を展開するための足掛かり

深い学びの実現に向けての授業改善の視点

児童の思考・判断のよりどころなる主な音楽を形づくっている要素

- 音楽を形づくっている要素自体の理解 → 解説書p. 135～138
- 一題材において、思考・判断のよりどころとして貫くもの
→領域・分野を関連付けた題材構想の場合、領域・分野、若しくは教材によって異なるものではない。
- 思考・判断のよりどころとなる「主な」を設定する
→焦点化
- 年間指導計画でのバランスや児童の実態に応じた要素の設定

学習指導案について

1. 題材構想の捉えについて

6 題材の評価規準

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参考にする。

※⑨語尾は「～ている。」と書く。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
※⑥知識と技能の内容を別に記載する。 《例》 知「知識」の内容で 技「技能」の内容で	※⑦授業で複数の分野・領域を扱う場合は（歌唱）（器楽）など、文末に（ ）を付けて記載し、区別する。 1領域・分野の場合は、記載しなくて構わない。	※⑧題材を通して、1つ設定する。



「参考資料」p. 87～を参考に設定

2 題材の目標

※①次の内容で書く。

- (1) (知識及び技能) に関する内容
- (2) (思考力、判断力、表現力等) に関する内容
- (3) (学びに向かう力、人間性等) に関する内容

※② (学びに向かう力、人間性等) に関する内容の最後は、題材後の児童（生徒）の姿を設定する。

※③語尾は「～身に付ける。」「～する。」と書く。（～できるとしない。）

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参考にする。

指導と評価の一体化

題材名 和音に合わせて旋律をつくろう〔第5学年〕「A表現・音楽づくり」

A 表現 (3)音楽づくり ア(イ), イ(イ), ウ(イ) 〔共通事項〕(1) ア

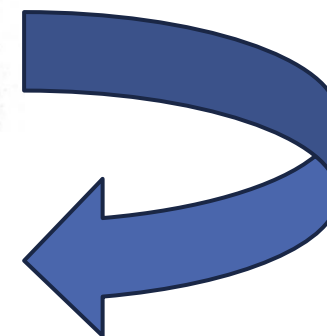
(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：

「音楽の縦と横との関係」)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①[知] 和音の響きとその移り変わりや、和音と旋律との関わりについて、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解している。 ②[技] 思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係を用いて、音楽をつくる技能を身に付けてリコーダーで旋律をつくっている。	思① 音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。 思② 音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、旋律を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	態① 和音と旋律との関わりを生かして音楽をつくる活動に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

題材を通して
1つ設定



1 題材の目標

- (1) 和音の響きとその移り変わりや、和音と旋律との関わりについて、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2) 音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、旋律を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 和音と旋律との関わりや、音楽の仕組みを用いて旋律をつくることに興味・関心をもち、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組み、様々な音楽との関わりを通して音楽の縦と横との関係に親しむ。

知識

技能

思考力、判断力、
表現力等

指導と評価の一体化

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①[知] 和音の響きとその移り変わりや、和音と旋律との関わりについて、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解している。	思① 音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。	態① 和音と旋律との関わりを生かして音楽をつくる活動に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。
②[技] 思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係を用いて、音楽をつくる技能を身に付けてリコーダーで旋律をつくっている。	思② 音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、旋律を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	

徳島 ICT活用モデル

～個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けて～



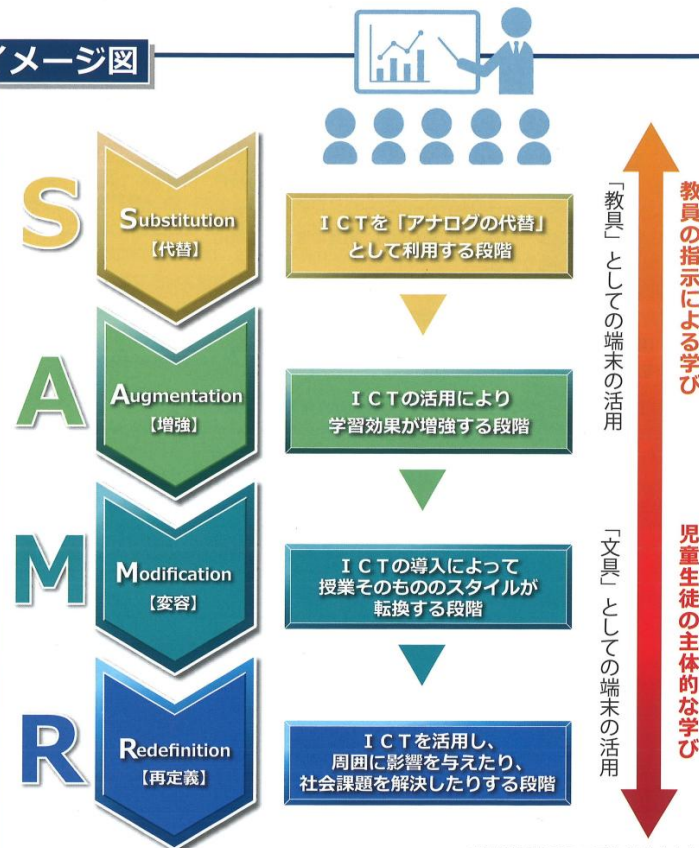
徳島県教育委員会
令和 6 年 3 月



徳島ICT活用モデル

「徳島ICT活用モデル」は、県内の小・中・高校・中等教育学校・特別支援学校におけるDXによる学び・指導の変革、1人1台端末の日常的・効果的な活用の推進のために策定しました。
ICTが授業や学習者にどのような影響を与えるのかを示す段階及び指標（S～R）をもとに、各校において活用の定点観測をしたり、授業デザインを構想したりすることを通して、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実のために役立ててください。

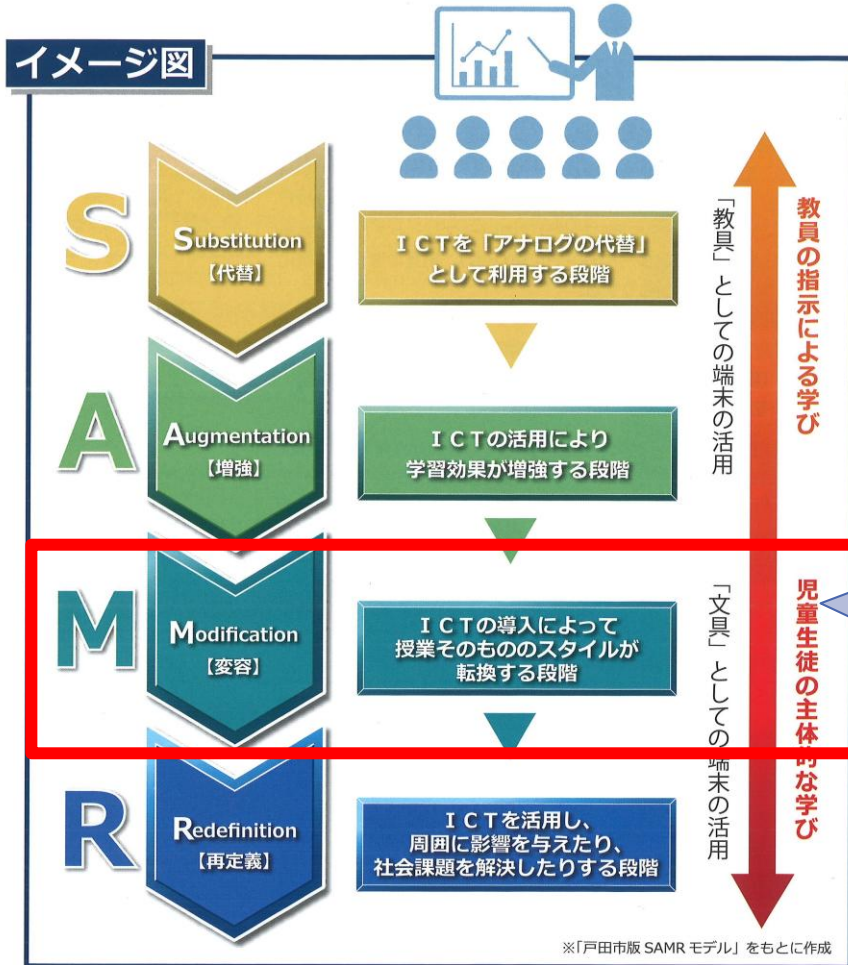
イメージ図



※「戸田市版 SAMR モデル」をもとに作成

徳島ICT活用モデル

「徳島ICT活用モデル」は、県内の小・中・高校・中等教育学校・特別支援学校におけるDXによる学び・指導の変革、1人1台端末の日常的・効果的な活用の推進のために策定しました。
ICTが授業や学習者にどのような影響を与えるのかを示す段階及び指標（S～R）をもとに、各校において活用の定点観測をしたり、授業デザインを構想したりすることを通して、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実のために役立ててください。



2. ICTの活用について

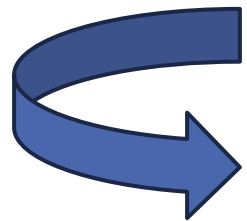
Modification【変容】

ICTの導入によって授業そのもののスタイルが転換する

- ロイロノートを活用して自宅で反転学習を行い、学校では対話や協働作業などの活動を行う。
- オンラインで専門家とつながり、活動への助言をもらう。
- 遠隔地の学校とオンラインでつなぎ、相互に学ぶ。
- Microsoft Formsを利用し、アンケートをとって分析する。

音楽科授業における効果的なICTの活用とは

- ・ 児童が音楽に対する**感性を働かせやすい**環境の設定ができる
- ・ 音や音楽を、**音楽を形づくっている要素の働きの視点**で捉えることができる
- ・ 捉えたことと自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと**関連付け**たりできる



「聴き取ったこと（知覚）」と「感じ取ったこと（感受）」
の関わりを深める
思いをもつ
技能の習得や表現の創意工夫を高める
音楽づくり→思いをかたちに

【表現】

- ・ 自分の歌唱や演奏を録音・録画し、それを再生しながら、表したい音楽表現の見通しをもったり、技能の習得過程を確認したりする。
- ・ 音を可視化するソフトを利用して、音高や音量、アーティキュレーションなどを確認し、表したい音楽表現を創意工夫するための修正の方向性をもつ。
- ・ インターネットを活用して、曲の背景などについての知識を得ながら、歌唱・器楽で表現するための表現意図を深める。
- ・ 音楽制作ソフトなどを活用して、音の連ね方や重ね方を即興的に試しながら音楽をつくったり、音色を様々に変化させながら、表したい音楽のイメージを豊かにしたりする。
- ・ つくった音楽を再生して音で確認しながら、創作表現を工夫したり、ペアやグループで感想やアドバイスを伝え合いながら、つくった作品を修正したり、さらに工夫を重ねたりする。

【鑑賞】

- ・ クラウドに保存された演奏の音源や画像を、自分が視聴したい部分を取り出して繰り返し聴きながら、音楽を形づくっている要素やその働きの感受を深める。
- ・ 作品の背景となる文化・歴史、他の芸術との関わりについて考える際に必要な情報をインターネットで検索し、作品に対する理解を深める。
- ・ 同じ作品を異なる楽器や異なる演奏家による演奏で聴き比べ、音楽表現の共通性や固有性について考えながら、よさや美しさを味わって聴く活動につなげる。

- ・ 読譜補助の活用
- ・ 音の可視化
- ・ 代替楽器としての活用
- ・ お手本動画やコンテンツ、映像資料
- ・ デジタル教科書等の活用
- ・ 録画や録音機能の活用
- ・ インターネットによる調べ学習での活用
- ・ 思考ツールの活用
- ・ クラウド音源の活用
- ・ アンケートフォームを用いての導入や振り返り

参考

小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 p. 84－86

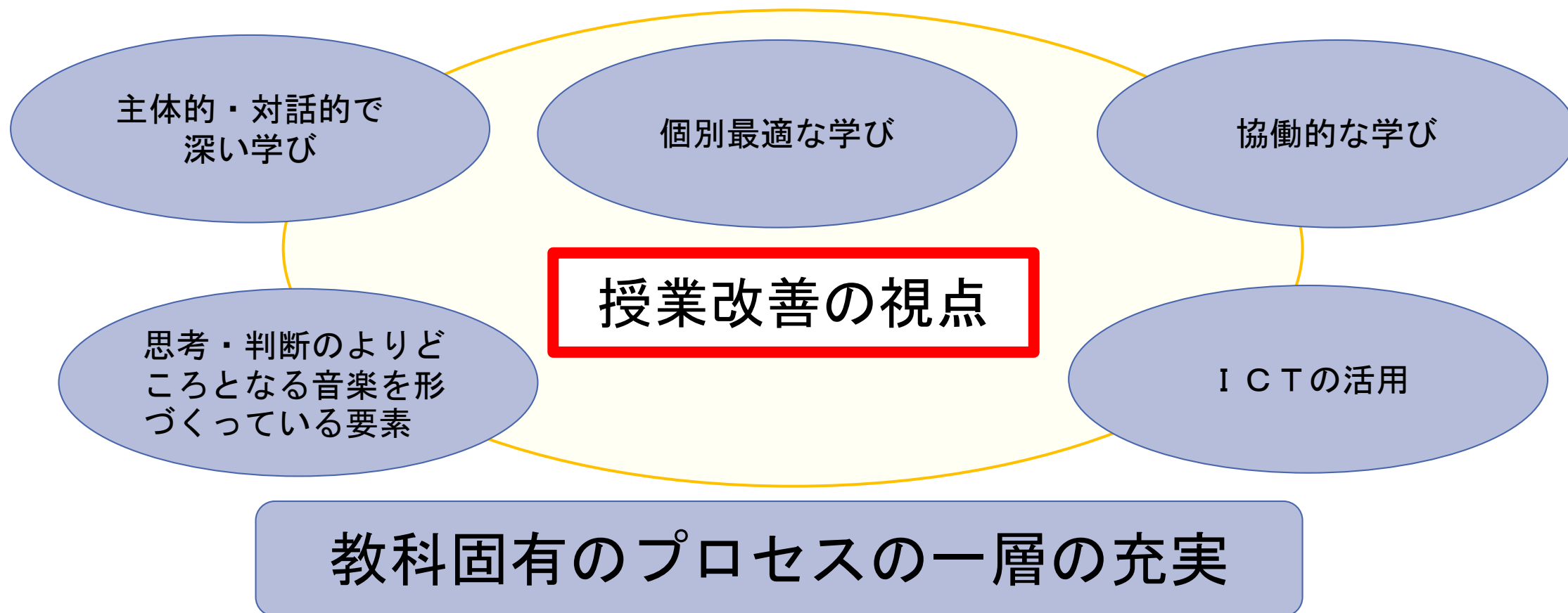
＜考えるための技法の例＞

- 順序付ける
- 比較する
- 分類する
- 関連付ける
- 多面的に見る・多角的に見る
- 理由付ける
- 見通す
- 具体化する
- 抽象化する
- 構造化する

資質・能力の育成の観点から

1. 題材構想の捉えについて

2. ICTの活用について



資質・能力の育成の観点から

教科固有のプロセス

解説書 より

我が国や諸外国の様々な音楽を教材として扱い、児童一人一人の個性や興味・関心を生かした楽しい音楽活動を展開する。

p. 1 0

思いを基に、実際に歌って（演奏して）確かめていく過程を多く取り入れるようにする。

p. 3 1、3 7

旋律を口ずさんだり、音楽に合わせて体を動かしたりするなどの活動を効果的に取り入れて、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音楽を全体にわたって味わって聴く楽しさを感じ取れるようにする。

p. 4 9

児童が初期に抱いた、例えば「この曲は面白い」などの曲の印象を起点として、アの事項とイの事項との関連を図った学習を通して、聴き深めていく。

p. 7 9

資質・能力の育成を目指した 授業づくりにむけて

徳島県小学校音楽教育研究会 研修会

令和7年6月4日